

令和7年度 第1回 ナショナルサイクルルート審査委員会 議事概要

1. 開催日時等

日時 令和8年3月23日（月）13:00～15:20
会場 中央合同庁舎第3号館 2階 C会議室（WEB併用）
議事 （1）ナショナルサイクルルートのフォローアップについて
① 既存ルートの取組状況
② ルート特性に関する情報提供
（2）候補ルートの選定について
（3）ナショナルサイクルルート制度のレビューについて
（4）今後の進め方について
委員 屋井 鉄雄（委員長）
入谷 誠、楓 千里、古倉 宗治、高橋 幸博、畑中 絹代、宮内 忍、
山中 英生（WEB）
事務局 国土交通省道路局自転車活用推進本部事務局

2. 委員からの主な意見

（1）ナショナルサイクルルートのフォローアップについて

①既存ルートの取組状況【資料1】

- ・各ルートにインバウンドを誘致するにあたり、安全面から走行環境の整備は特に重要。（屋井委員長）
- ・走行環境が整っているルートは、利用者視点の評価に移行するとよいのではないか。（楓委員）
- ・地域振興の効果や地域住民の利用などの効果、また、各ルートのコンセプトの実現状況などの評価が必要ではないか。（古倉委員）
- ・各ルートの取組体制の充実が重要。各ルートの強みと弱みを分析して改善につなげていくとよい。（高橋委員）
- ・太平洋岸自転車道について交通量が多い一方で路肩が不足している区間など走行環境の整備進捗を懸念。また、インバウンドに対する案内の不足、矢羽根型路面表示が消えている状況など、指定後にも現地状況を確認する仕組みがあるとよい。（畑中委員）
- ・各ルートの情報発信について、戦略的に売り込むためにも、デジタルマップなど情報の標準化が必要ではないか。（畑中委員）
- ・太平洋岸自転車道は早期のルートの細分化を検討すべきである。（宮内委員）
- ・各ルートのマップは、フォーマットを統一すべきである。（宮内委員）
- ・利用者数について例えばツアーの来訪数は把握できると思われる。（宮内委員）
- ・定点観測などによる利用者数の経年的な評価は重要。（山中委員）
- ・路肩の不足は改善するのは大変だが、少なくともマップで注意喚起したほうがよい。（山中委員）
- ・ルートの安全性について実際に走った方の意見を聞くとよいのではないか。（入谷委員）

②ルート特性に関する情報提供【資料2】

- ・電動アシスト自転車の利用増も踏まえ、移動量と走行環境の評価は併記がよい。(宮内委員)
- ・交通量の情報とアップダウン等の情報は分けて提供した方が、利用者として使い勝手がよい。(入谷委員)
- ・例えば交通量の多い区間や未整備区間が単に含まれるか、含まれないかではなく、1日区間に含まれる割合を基準としたほうがよいのではないか。(山中委員)
- ・1日交通量1万台で車道混在の区間がNCRには認めているが、ユーロヴェロの基準では上級向けで一日区間の1%、中級・初級では含まれてはいけなくなっている。こうした点を考慮して、1万台以上車道混在区間は注意区間としてマップ等に明記すべきと思う。(山中委員)
- ・移動量と走行環境を両方評価したほうがよい。上り坂のレベルやE-bikeの有無などの情報もあるとよい。(畑中委員)
- ・1日を想定した区間だけではなく半日など部分利用のためのレベル評価もあるとよいのではないか。(古倉委員)
- ・距離と獲得標高の基準値については掛け合わせて考えるのではないか。(古倉委員)
- ・ガイドツアーでは、家族連れがメインであり、周辺観光地も盛り込みつつ、他の移動手段も組み合わせて案内することが多い。交通量の多いところなどの注意情報をマップに細かく示してあると役立つと思う。(高橋委員)
- ・移動量の評価は初級・中級・上級という表現でよいが、走行環境の評価は困難、容易などの言葉で表現したほうがよい。また、区間ごとのレベルだけでなく、走行環境の注意点は個々に地図上に表記するルールを示すべきではないか。(屋井委員長)
- ・初級の範囲とする交通量については適切かどうか考える必要がある。(屋井委員長)

(2) 候補ルートの選定について【資料3】

- ・候補ルートについては異論なし。(全委員)
- ・ルートが二重になっている場合は、ルートの総延長だけでなくショートカットした場合の延長をマップや現場で示せるとよい。(宮内委員)
- ・各ルートのコンセプトを分かりやすく示すことが重要。自転車ならではの価値を示せるとよい。(古倉委員)
- ・各ルートに自然や歴史などの魅力があるが体制がわかれているため、テーマ性をもって連携体制を作ることが重要。(高橋委員)
- ・ルートの魅力は指定要件の重要なポイントであり、今後議論したい。各ルートの魅力を、横のつながりも作りつつ、どう世界に発信していくかが重要。(畑中委員)
- ・いしかわ里山里海サイクリングルートでは、震災の影響が残るため、丁寧に情報提供を行うべきである。(宮内委員)
- ・各ルートの現地視察の前に、走行環境が未整備の区間の状況をマップなどにより確認できるとよい。(屋井委員長)

(3) ナショナルサイクルルート制度のレビューについて【資料4】

(4) 今後の進め方について【資料5】

- ・現地視察の前に候補ルートの整備状況の共有や既存ルートのフォローアップの議論を

行うべきである。(屋井委員長)

(以上)